



第93期

事業報告書

2003.2.21～2004.2.20



AEON
MALL

イオンモール株式会社

お客さまの選別消費が進む中、当社ではお客さまのニーズに対応した地域一番の競争力を持つショッピングセンター（SC）づくりを進めています。当期も、お客さまの満足度を高めるさまざまな施策を実施し、連結営業収益は前期比14.5%増の353億円と、大幅な増収を達成することができました。これは、前期に開設したイオン高岡SCの通年寄与、当期新たに開設したイオン盛岡SC、イオン太田SCの好調な出足に加え、既存SCにおいても積極的な活性化により前年を上回る収益を確保したことによるものです。利益につきましては、多店舗展開にともなうチェーンオペレーションのメリットを追求しながら的確なコストコントロールに努めたことで、経常利益が同35.2%増の101億円と、初めて100億円を突破しました。当期利益は同43.8%増の55億円となり、おかげさまで、SC事業開始以来15期連続で増収増益を達成することができました。

● “選ばれる” ショッピングセンターづくりで

イオン盛岡SCオープン
(2003年8月)

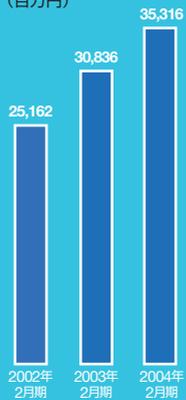


イオン太田SCオープン
(2003年12月)

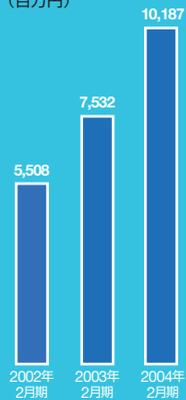


● 当期の主な取り組み ●

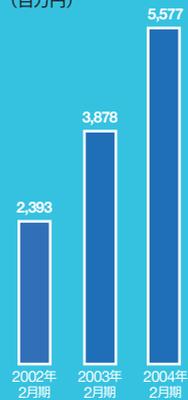
営業収益 (百万円)



経常利益 (百万円)



当期利益 (百万円)



15期連続の増収増益を達成しました。

イオン鈴鹿SCにシネマコンプレックスを導入
(2003年7月)

イオン柏SCにシネマコンプレックスを導入
(2003年8月)

イオン三光SCリニューアル
(2003年3月)





代表取締役社長
川戸義晴

「商業施設面積300万m²以上、50SC以上を達成し、世界のトップテンにランクインする」という長期ビジョンに向かって着実に前進。今後もSC専門ディベロッパーとして専門性、総合力を高め、さらなる発展を目指していきます。

長期ビジョン実現を見据えての第一ステップとなった当期を終えて、手ごたえはいかがですか？ また、今後の課題をどのように捉えていますか？

2003年度は営業収益530億円、当期利益70億円、ROA(総資産当期利益率)3.5%以上を目標とする中期3カ年計画をスタートさせましたが、初年度においてROA3.5%を達成することができました。イオン盛岡SC、イオン太田SCの2SCの開店で16SC体制となり、商業施設面積は85万m²に拡大しました。既存13SCにおいては、積極的な増床、リニューアルの実施により専門店の客数が前期より5.8%増え、専門店売上高はいずれのSCでも前期を上回り、13SC全体では前期比7.0%増を達成しています。

このように好調な業績を確保できたことを受け、さらに高い目標を掲げた中期経営計画(2004~2006年度)を新たに策定しました。25SC体制を目標に3年で9SCの開店に取り組み、全SCの総売上高6,000億円、商業施設面積150万m²へと営業基盤を拡大します。経営目標としては営業収益で630億円、当期利益で100億円と3年間の年間平均で約25%の利益拡大、ROA5.0%以上に挑戦します。

日本のSC業界は今、工場の海外移転による跡地流用、工業団地の商業地への転用などでSCに適した立地が増えて



きたことから商社や大手不動産会社、巨大流通外資などの参入が始まっており、競争が激化しています。競争に打ち勝つためにはお客さまに選ばれることはもちろん、専門店から見て「出店したいSC」になることも重要です。その一方でディベロッパー側も専門店を選別できる状況にならなければなりません。そのための課題として開発力、財務力、SC営業力の強化を掲げ、新規SCの開発と既存SCの増収増益で継続的成長を遂げていくことを目指します。

投資効率を考えた資金調達によって有利子負債の削減をさらに進め、財務体質の強化に取り組んでいきます。

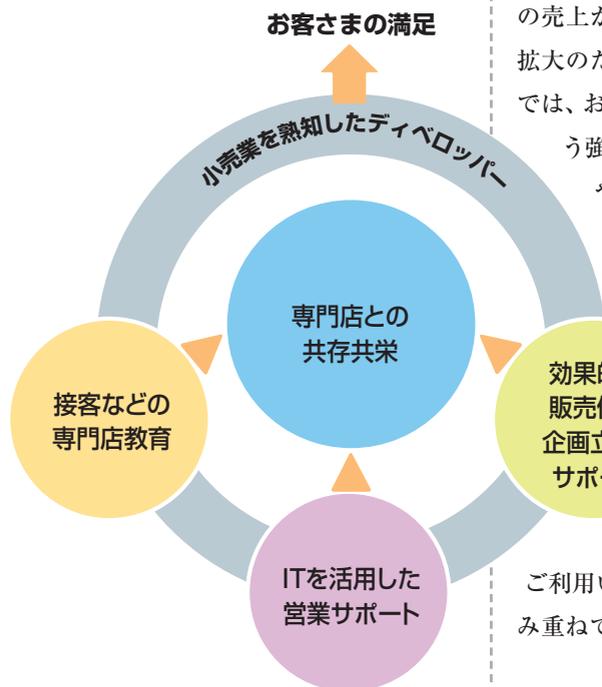
今後3年で9SCのオープンに向けた資金調達方針についてはどのようなプランを持っていますか？

当社が基本とする建物所有・借地方式で、3年で9SCを開設するのに必要な設備投資は約1,200億円になります。それに対し、営業キャッシュフローは3年間で約600億円、出店者からお預かりする敷金・保証金が投資額の20%で約240億円となりますので、手元資金は約840億円になる計算です。残り約360億円をどう補うかということになりますが、あくまで建物所有・借地方式を基本としつつ、既存SCの資産流動化、市場からの資金調達も活用して、投資効率の向上、有利子負債の圧縮に取り組んでいきます。そして、自己資本比率を3年後には25%までに引き上げるなど、筋肉質な財務体質をつくりあげていく考えです。2003年度にオープンしたイオン太田SCは建物をオフバランスし、資産の過剰な膨らみを抑えることに成功しました。このような資金調達の選択などにより、当期の有利子負債の総資産に対する比率は前期の45.5%から41.4%に改善しました。

小売のノウハウを活かし、お客さまの視点に立った総合的なSCづくりを実践できることが当社の最大の強みです。

イオンモールのSC運営上の強みはこういった部分でしょうか？

SC事業の収益源は専門店からの家賃収入です。当社では専門店からの家賃収入の75%が売上に連動する歩合家賃で、専門店の売上が増えると、当社の家賃収入も増えます。また、一般的にオフィスビルや賃貸住宅などは古くなると家賃が下がりますが、歩合家賃の場合、10年経過しても専門店



の売上が伸びていけば、その時点での家賃は増加します。従って収益拡大のためには専門店の売上をいかに高めるかが鍵になります。当社では、お客さまのニーズを知り尽くした小売業出身のディベロッパーという強みを活かし、テナントミックスの最適化、接客などの専門店教育やITを活用した営業サポート、販売促進・企画立案など、専門店の売上向上策を的確に実行し、お客さまの視点に立ったSCづくりを展開しています。その実績が専門店から信頼と評価を得るに至り、優秀なディベロッパーを専門店が選出する「ディベロッパー大賞(主催：織研新聞)」において2年連続で特別賞を受賞しました。当社の事業の原点は「お客さま第一」の理念です。何よりもまず「お客さまの声」に耳を傾け、「美しい」「楽しい」「親切的」SCづくりを推進し、すべての方に心地よく、安心してSCをご利用いただけるよう、日々の運営においてさまざまな努力・改善を積み重ねています。

当期から新たに取り組んでいる事業はありますか？

本格的なプロパティ・マネジメント事業に参入。これまで培ったノウハウを活かし、将来の収益の柱のひとつとなるよう育成していきます。

新規事業としてプロパティ・マネジメント事業に着手しました。プロパティ・マネジメントとはSCを所有するオーナーから企画開発、リーシング、運営、施設管理などの業務を請け負うビジネスです。2003年度はその最初の案件として、台湾の商業施設の建設管理業務援助に関する契約を2物件締結しました。運営管理のコンサルティングに携わることも含め、現在準備を進めています。

2SCのオープン、既存SCの積極的な増床を実施予定。保険代理店事業においては、個人・法人の両分野で各取り組みを強化し、業績拡大につなげていきます。

来期の見通しについてはいかがですか？

2004年度は、すでに着工しましたイオン浜松志都呂SC、イオン泉南SCのオープンを予定しています。既存SCではイオン下田HSC*、イオン三光SCの増床、イオン高知SCでのシネマコンプレックス導入などを計画しており、SCの競争力の強化、運営の効率化を図ることでより一層の業績拡大に取り組みます。

当社のもうひとつの事業である保険代理店事業では、年金などの社会保険制度の変更によりお客さまの将来の生活に対する不安が増大する中、引き続き個人分野の強化に注力します。また、2002年度より導入しているSC内の保険販売専用カウンター設置をさらに進め、販売チャネルの拡大を図っていきます。なお、2004年3月1日に(株)マイカルの子会社である保険代理店、(株)エヌ・アイ・エーより営業を譲り受けました。このような法人分野での事業基盤の拡大にともない、来期は保険代理店事業で前年比30%以上の増収を目指します。

来期の連結業績見通しとしましては、営業収益420億円(前期比18.9%増)、経常利益123億円(同20.7%増)、当期利益69億円(同23.7%増)を見込んでおり、ROAは3.8%を目標としています。

*イオン下田HSCは、4月21日にリニューアルオープンしました。

株主・投資家の皆さまのご期待に応えるべく、持続的成長を目指し、企業価値の向上に挑戦していきます。

最後に株主・投資家の皆さまへのメッセージをお願いします

長期ビジョンを見据えつつ諸施策に取り組んだ当期は、営業収益・営業利益・経常利益・当期利益のすべてにおいて目標を達成することができました。1株当たりの当期利益も昨年度を上回る188.91円を確保し、順調に拡大しました。また、株主の皆さまへの利益還元策の一環として2003年4月10日付(基準日2月20日)で普通株式1株を1.2株に分割しています。今後も安定した配当を継続し、株主・投資家の皆さまへ利益還元を図るために企業価値の向上と株主価値の最大化を目指し、全社一丸となって努力していく所存です。一層のご支援・ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

● イオン太田ショッピングセンター ●

群馬県に、都市型機能を集約した ショッピングセンターがオープンしました。

2003年12月5日、当社16番目のSCとして、群馬県太田市に「イオン太田ショッピングセンター」がオープンしました。群馬県南東部に位置する太田市は、自動車産業を中心とする北関東有数の工業都市で、人口15万人を擁します。その中心地に誕生した当SCは、「ストップ・ザ・東京」を合言葉に、感性、品揃え、サービスのすべての面において都市型機能を集約しており、これまで東京に流出していた買物ニーズに歯止めをかけ、地域のお客さまに便利で心地よく、そして少しおしゃれでグレード感のあるショッピングの場を提供することを目指しています。おかげさまでオープンから1カ月で155万人のお客さまにご利用いただき、好調な売上を記録。その後も着実に業績を伸ばしています。



アクセスに恵まれた好立地

イオン太田SCは、南東に走る国道122号線に接しており、東西に走る国道50号線と354号線、南北に走る国道407号線からもアクセスしやすい立地にあります。また、北関東自動車道太田インターチェンジの整備も進められており、群馬、栃木、埼玉の3県にまたがる広域商圏からの集客が期待できます。



北関東最大規模の商業施設

エンクロードモール型の当SCは敷地面積120,008m²、商業施設面積62,046m²と、北関東最大の規模を誇ります。全長217mのモールは吹き抜けの高さが16m、1階の通路幅は8mという開放感に満ちた造り。ガラス張りの天井からは太陽の光が射し込み、爽快な雰囲気の中でショッピングをお楽しみいただけます。



行政サービスコーナーを設置

SC内には太田市行政サービスコーナー「おおたハートプラザ」(太田市サービスセンター、太田市消費生活センター、おおたNPOセンター)を設置しています。日祭日も営業し、住民票などの各種証明書の発行や各種届出対応、母子手帳の交付など多彩な市民サービスを提供。地域のコミュニティ施設として、お客さまの暮らしをバックアップしています。



所在地	群馬県太田市石原町81番地	
電話番号	0276-47-8700	
規模	敷地面積	120,008m ²
	商業施設面積	62,046m ²
駐車台数	4,000台	
商圏人口	約67万人(約23万世帯)	

●●●●● お買い物も、映画も、お食事も

核店舗「ジャスコ太田店」、準核店舗の「セキチュー」(ホームセンター)、大型スポーツ専門店「スポーツオーソリティ」、10スクリーンを持つシネマコンプレックス「イオンシネマ太田」が出店するほか、レストラン街を構成する飲食店も充実。バラエティ豊かな機能を備えた複合型商業施設として、お客さまにさまざまなサービスを提供しています。



●●●●● 魅力あふれる137店の専門店



専門店街は、「ライフスタイル」と「エキサイティング」をテーマに、137のテナントで構成されています。そのうちの79店は群馬県初出店であり、おしゃれ、感性、アップグレード感を意識した店舗をラインアップ。わざわざ東京まで行かなくても、「ここ」で満たされる……そんな満足感、新鮮な感動を地元のお客さまにお届けしています。

●●●●● 太田市の確定申告会場に

当社ではすべてのSCに多目的スペース「イオンホール」を設けて地域の皆さまに開放していますが、イオン太田SCでは2003年度の確定申告会場として同ホールが活用されました。これまで会場となっていた太田市役所から、駐車場など来場者の利便性を考慮して変更となったもので、当SCが地域のコミュニティセンターとして根づきつつあることを実証した好例といえるでしょう。



ショッピングセンター一覽

	開店	住所	テナント数	核店舗・準核店舗	駐車台数
イオン柏SC	1992年	青森県西津軽郡柏村	82店	ジャスコ・ホームマック	2,700台
イオン秋田SC	1993年	秋田県秋田市	113店	ジャスコ・中三百貨店	2,700台
イオン富津SC	1993年	千葉県富津市	85店	ジャスコ	1,800台
イオン下田SC	1995年	青森県上北郡下田町	105店	ジャスコ	4,000台
イオン鈴鹿SC	1996年	三重県鈴鹿市	139店	ジャスコ	3,500台
イオン三光SC	1996年	大分県下毛郡三光村	66店	ジャスコ・ホームワイド	2,500台
イオン倉敷SC	1999年	岡山県倉敷市	113店	ジャスコ・メガマート	4,000台
イオン成田SC	2000年	千葉県成田市	109店	ジャスコ・ケーヨー	3,500台
イオン岡崎SC	2000年	愛知県岡崎市	79店	ジャスコ・西武百貨店	3,500台
イオン高知SC	2000年	高知県高知市	112店	ジャスコ	2,800台
イオン新居浜SC	2001年	愛媛県新居浜市	90店	ジャスコ・メガマート	3,500台
イオン東浦SC	2001年	愛知県知多郡東浦町	95店	ジャスコ・メガマート	4,000台
イオン大和SC	2001年	神奈川県大和市	87店	ジャスコ	1,900台
イオン高岡SC	2002年	富山県高岡市	130店	ジャスコ・タテヤマ	3,600台
イオン盛岡SC	2003年	岩手県盛岡市	113店	ジャスコ	2,800台
イオン太田SC	2003年	群馬県太田市	139店	ジャスコ・セキチュー	4,000台



連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前 期 自2002年2月21日 至2003年2月20日	当 期 自2003年2月21日 至2004年2月20日
営業収益	30,836	35,316
不動産賃貸収益	29,612	34,008
保険代理店手数料	1,156	1,286
商品売上高	67	20
営業原価	18,737	20,504
営業総利益	12,098	14,811
販売費及び一般管理費	3,057	3,404
営業利益	9,041	11,407
営業外収益	183	343
営業外費用	1,692	1,563
経常利益	7,532	10,187
特別利益	369	24
特別損失	1,058	474
税金等調整前当期純利益	6,843	9,737
法人税、住民税及び事業税	3,251	4,418
法人税等調整額	△ 325	△ 307
少数株主利益	38	49
当期純利益	3,878	5,577

営業概況

SC事業

当期は新たに2つのSCをオープンしました。2003年8月に開店したイオン盛岡SC(岩手県)、12月に開店したイオン太田SC(群馬県)の両SCとも県内はもとより、より広域のお客さまにご来店いただき、計画を上回る売上高を達成しています。また前期に開店したイオン高岡SC(富山県)も、引き続き大変好調に推移しました。

既存SCでは増床・リニューアル、専門店の入れ替えを積極的に推し進め、サービス力の向上による競争力の強化に取り組みました。当社ではさまざまな角度からお客さまにSCを楽しんでいただけるよう、エンターテインメント機能の強化を進めており、

連結剰余金計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前 期 自2002年2月21日 至2003年2月20日	当 期 自2003年2月21日 至2004年2月20日
<資本剰余金の部>		
資本剰余金期首残高	3,311	5,434
資本剰余金増加高		
新株式発行増資による増加	2,122	1,731
資本剰余金期末残高	5,434	7,165
<利益剰余金の部>		
利益剰余金期首残高	8,386	11,786
利益剰余金増加高	3,878	5,577
利益剰余金減少高	479	629
配当金	445	593
役員賞与	34	35
利益剰余金期末残高	11,786	16,734

当期もイオン鈴鹿SC(三重県)とイオン柏SC(青森県)にシネマコンプレックスを導入しました。他のSCにおいても注目度の高い新規専門店の導入やお客さま参加型のイベントを実施するなど、集客力の向上に取り組み、既存13SCでの専門店売上高は前期比7.0%増と、消費低迷が続く環境下でも順調に拡大しています。

売上歩合制を多く取り入れている賃料収入は、専門店売上の着実な伸

びを反映して増加。賃料収入とサービスカウンターなどでの販売収益を合わせたSC事業の営業収益は、前期比14.7%増の340億円になりました。

保険代理店事業

価格競争が激化し、保険会社における代理店の選別・統廃合が加速する中、当社では個人分野における営業拡大に積極的に取り組む一方で、さらなる法人顧客の確保に向け、サー

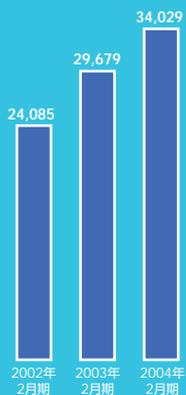
ビス力・提案力の強化を図りました。

個人分野では、新規・継続契約ともに好調に推移。前期より新たな販売チャンネルとして導入したSCでの保険販売専用カウンターも着実に拠点を拡大し、当期は新たに5SCに設置しました。法人分野でも、グループ各社の事業拡大に対応した提案型営業により、契約数が拡大。当事業の営業収益は前期比11.3%増の12億円になりました。

営業利益 (百万円)
営業利益率 (%)



SC事業営業収益 (百万円)



保険代理店事業営業収益 (百万円)



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前 期 2003年2月20日現在	当 期 2004年2月20日現在
<資産の部>		
流動資産	9,453	10,760
固定資産	144,737	156,038
有形固定資産	132,306	140,273
無形固定資産	349	327
投資その他の資産	12,081	15,437
資産合計	154,190	166,799
<負債の部>		
流動負債	27,193	36,723
固定負債	103,094	97,645
負債合計	130,288	134,368
少数株主持分	140	183
<資本の部>		
資本金	6,065	7,796
資本剰余金	5,434	7,165
利益剰余金	11,786	16,734
其他有価証券評価差額金	476	560
自己株式	—	△ 9
資本合計	23,762	32,247
負債、少数株主持分及び資本合計	154,190	166,799

財産の動き

総資産は前期に比べ126億円増加し、1,667億円となりました。これは主に新規に開設したイオン盛岡SCの固定資産、イオン柏SC、イオン鈴鹿SCの増床・リニューアルによる固定資産の増加によるものです。当期のもうひとつの新店であるイオン太田SCの開発では、オペレーティング・リース方式を採用して固定資産の過剰な膨張を回避。ROA（総資産当期利益率）は2.6%から3.5%となり、前期に策定した中期経営目標のひとつである資産効率を達成しました。

イオン太田SCをオペレーティング・リースで開発したことは、初期投資の低減も意味します。これにより借入金の増加が抑制され、さらに2003年8月に行った公募増資でSCへ

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前 期 自2002年2月21日 至2003年2月20日	当 期 自2003年2月21日 至2004年2月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,824	13,288
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,675	△ 14,969
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,859	1,669
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	3,289	△ 11
現金及び現金同等物の期首残高	2,853	6,142
現金及び現金同等物の期末残高	6,142	6,130

の設備投資資金を調達したことで、固定資産の増加にもかかわらず有利子負債は前期に比べ11億円減少。総資産に占める有利子負債の割合は45.5%から41.4%へと改善しました。

株主資本は、順調な利益拡大と公募増資により資本金が17億円増加したことで、前期比84億円増の322億円に、株主資本比率は15.4%から19.3%となりました。

キャッシュ・フローの状況

新規SCおよび既存SCがともに好調に推移したことに加え、前期に開店したイオン高岡SCが通期稼動となったことで、営業活動によるキャッシュ・フローは前期に比べ24億円増加し、132億円となりました。

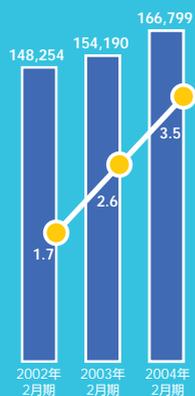
投資活動によるキャッシュ・フローは、新規SCの開設、既存SCの増床などにより有形固定資産の取得による支出が144億円あり、149億円の支出(前期

に比べ100億円の支出増)となりました。

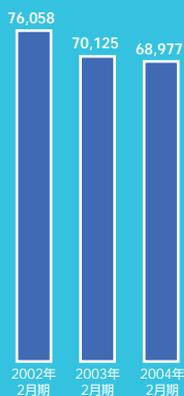
財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加抑制に努めるとともに借入金の返済を進めた一方で、公募増資による収入が34億円あったことから16億円(前期に比べ45億円の増加)となりました。

この結果、当期の現金及び現金同等物の期末残高は、前期と同レベルの61億円となりました。

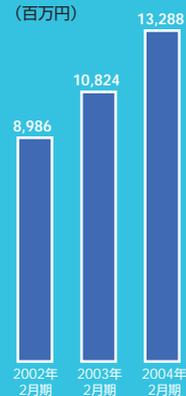
総資産 (百万円)
ROA (%)



有利子負債 (百万円)



営業活動による
キャッシュ・フロー (百万円)



損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前期 自2002年2月21日 至2003年2月20日	当期 自2003年2月21日 至2004年2月20日
営業収益	31,105	35,600
不動産賃貸収益	29,881	34,293
保険代理店手数料	1,156	1,286
商品売上高	67	20
営業原価	19,315	21,161
営業総利益	11,789	14,438
販売費及び一般管理費	3,033	3,375
営業利益	8,755	11,063
営業外収益	196	356
営業外費用	1,628	1,501
経常利益	7,324	9,918
特別利益	368	29
特別損失	1,056	474
税引前当期純利益	6,636	9,472
法人税、住民税及び事業税	3,145	4,306
法人税等調整額	△ 310	△ 312
当期純利益	3,801	5,478
前期繰越利益	470	1,094
当期末処分利益	4,272	6,573

貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前期 2003年2月20日現在	当期 2004年2月20日現在
<資産の部>		
流動資産	9,038	10,311
固定資産	142,239	153,772
有形固定資産	127,678	135,939
無形固定資産	331	312
投資その他の資産	14,229	17,520
資産合計	151,278	164,083
<負債の部>		
流動負債	26,868	36,439
固定負債	100,764	95,612
負債合計	127,633	132,051
<資本の部>		
資本金	6,065	7,796
資本剰余金	5,434	7,165
利益剰余金	11,669	16,518
その他有価証券評価差額金	476	560
自己株式	—	△ 9
資本合計	23,645	32,031
負債・資本合計	151,278	164,083

利益処分

(単位:百万円)

	前期 自2002年2月21日 至2003年2月20日	当期 自2003年2月21日 至2004年2月20日
当期末処分利益	4,272	6,573
任意積立金取崩額	96	100
固定資産圧縮積立金取崩額	14	7
特別償却準備金取崩額	82	92
合計	4,369	6,673
<利益処分額>		
配当金	593	750
役員賞与金	35	38
任意積立金	2,645	3,974
特別償却準備金	145	174
別途積立金	2,500	3,800
次期繰越利益	1,094	1,910

会社概要 (2004年2月20日現在)

社名 **イオンモール株式会社**
 英文社名 AEON Mall Co., Ltd.
 設立 1911 (明治44) 年11月
 資本金 77億96百万円
 本社所在地 千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
 従業員数 326名

取締役及び監査役 (2004年5月17日現在)

代表取締役社長 川戸義晴
 常務取締役 岡崎隆夫 管理本部長
 常務取締役 羽間和彦 SC営業本部長
 常務取締役 田中 稔 SC開発本部長
 取締役相談役 岡田元也 イオン(株)取締役兼代表執行役社長
 取締役 三浦政次 経営企画部長
 取締役 平林秀博 開発部長
 取締役 吉村 惇 建設部長
 取締役 西尾徹二 SC運営部長
 取締役 敷中 博 高岡SCゼネラルマネージャー
 取締役 小西幸夫 テナント開発部長
 取締役 瀧澤一郎 保険事業本部長
 常勤監査役 横井 賢
 監査役 山口篤一 (株)日比谷ビルディング代表取締役社長
 監査役 大川貞夫
 監査役 早水恵之 イオン(株)執行役経営管理本部長兼財務部長

株式の状況 (2004年2月20日現在)

会社が発行する株式の総数 80,000,000株
 発行済株式の総数 30,005,616株
 株主数 2,559名

大株主 (上位10名)	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
イオン株式会社	16,076	53.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,470	8.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,501	5.00
みずほ信託退職給付信託 みずほコーポレート銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	1,333	4.44
農林中央金庫	481	1.60
第一生命保険相互会社	379	1.26
みずほ信託銀行株式会社	359	1.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエク イティンベストメンツ株式会社信託口)	359	1.20
日本生命保険相互会社	359	1.20
東京海上火災保険株式会社	359	1.20

- (注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 2. 議決権比率は、小数点以下第3位を切り捨てて表示しています。
 3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエクイティンベストメンツ株式会社信託口)は、中央三井信託銀行株式会社から移管されたものです。

2004年、*New* 新しいショッピングセンターがオープンします。

イオン浜松志都呂ショッピングセンター(仮称)

静岡県浜松市にオープン予定。浜松市西部の志都呂地区区画整理用地の活用により開発が進む、県下最大級のSCです。2004年4月より開催される浜名湖花博に合わせて道路網の整備が進んでおり、恵まれたアクセス環境のもと市内全域、近郊から集客可能な広域SCとして、規模だけでなくグレードにおいても地域一番店を目指します。

所在地	静岡県浜松市志都呂町35街区1画地	
規模(計画)	敷地面積	67,426m ²
	商業施設面積	65,322m ²
駐車台数	約2,900台	
商圏人口	約65万人(約23万世帯)	





イオン泉南ショッピングセンター(仮称)

大阪府泉南市にオープン予定。関西国際空港を臨むSCで、イオンモールの関西初出店です。大阪府が開発・造成した分譲型工業用地りんくうタウン南地区を商業用地に転換し当社が開発。南海本線樽井駅より約1km、国道26号に接続しやすい大阪臨海線・泉佐野岩出線沿いに位置し、泉南、泉佐野南の両インターチェンジへのアクセスが容易なため、広域からの集客が期待できます。

所在地	大阪府泉南市りんくう南浜3番地1地内	
規模(計画)	敷地面積	139,822m ²
	商業施設面積	77,026m ²
駐車台数	約4,300台	
商圏人口	約50万人(約16万世帯)	

株主メモ

- 決 算 期 2月20日(年1回)
- 基 準 日 2月20日
(そのほか必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
- 定時株主総会 5月(ただし20日までに開催)
- 1単元の株式の数 100株
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
(第92期から日本経済新聞の決算公告に代えて、貸借対照表ならびに
損益計算書を当社のホームページに掲載しております。)
- 名義書換代理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- (郵便物送付先) 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
(電話問い合わせ先) みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話(03)5213-5213(代表)
- 同 取 次 所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

【お問い合わせ先】イオンモール株式会社
経営企画部IR担当
〒261-8539 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1
TEL. 043-212-6733
E-mail amirdept@aeon-mall.net
ホームページ <http://www.aeon-mall.net>

本誌は非木材紙・ケナフ紙を使用しています。
ケナフ：ハイビスカスの仲間で一年草です。パルプと性質が似ており、森林資源の保護
のため非木材紙中心原料として注目されています。